

アズレン孕ませ出産小 話

ソットサス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

おっぱいのおつきもちっちゃんも関係なく、指揮官に孕まされて出産する話。オリジナル設定を含みます。

後完全に性癖です。

目次

イラストリアスとセントルイス

1

どんなにくるしくても、どんなにかなしくても、私たちが指揮官様をず〜と♡♡、ず〜と♡♡♡♡、お支えます♡♡♡♡、ミルクが欲しくなったらあ♡♡♡♡、こちらでえ♡♡♡♡のんでくださいね♡♡♡♡」

「いつもお姉さんや妹たちのことを心配して、自分のことよりお姉さんたちのことを優先してくれる♡♡♡♡、か〜とこいい♡♡♡♡、指揮官くん♡♡♡♡、私たちがわかりにくい傷ついてつらかったね♡♡♡♡、けどお♡♡♡♡、いまは♡♡♡♡そんなこと忘れて♡♡♡♡、あかちゃんにもどろ♡♡♡♡♡♡? いっぱいあまやかされちゃお♡♡♡♡♡♡? だらしくてもだいじょうぶだからね♡♡♡♡♡♡」

2人が服をずらしぶるんっ♡♡♡♡とふわふわ聖母おっぱいと、ぶにぶにサキユバスおっぱいがあらわになる。ニプルは桜色で、つやつやしている。

セントルイスが指揮官の正面に入り、イラストリアスが背面に回る。

「じゃあ♡♡♡♡、約束通り♡♡、セントルイスママから♡♡♡♡、ほら♡♡、おっぱいでちゅよ〜♡♡♡♡」

顔に密着したおっぱいを反射的に口に咥える指揮官。ミルクはまだ出ないのにちゅううう〜♡♡♡♡♡♡と吸い出そうとしている。

ちゅうううううう〜♡♡♡♡♡♡ちゅうううううう〜♡♡♡♡♡♡れろれろれろ♡♡♡♡♡♡♡♡

「んうっ♡♡♡、よ〜ちよ〜ち♡♡♡♡♡、おじようずでしゅよ〜♡♡♡♡」

背面に回ったイラストリアス も腕をトレーナーの腰に回し、腰部の膨らんだ部分を解放させようとしている。

「んっしよつと♡♡♡、しきかんのあつあつオチンポさま♡♡♡♡♡、でてきましたよ〜♡♡♡♡♡、ガチガチでつらいですね〜♡♡♡♡♡、楽にしてあげます〜♡♡♡♡♡、そお〜れ♡♡♡♡♡し〜こ♡♡♡♡♡し〜こ♡♡♡♡♡」

シユツシユツ♡♡と荒々しい手つきではなく、柔らかく、優しく、保育園のお姉さん先生が、年少さんを導くように、す〜りす〜り♡♡♡と、撫でるように捌いている。

がりゆ♡♡♡♡♡かぶっ♡♡♡♡♡ぺろぺろ♡♡

「もうっ♡♡♡♡♡、噛んじやだ〜め♡♡♡、いたいことすると♡♡、きらわれちゃうぞ〜♡♡♡♡♡、ん♡♡そう♡♡♡、やさしく♡♡♡♡♡、女の子のこと考えられてえらいぞ〜♡♡♡♡♡、よしよし♡♡♡♡♡」

はむはむ♡♡♡と優しい甘噛みだったのに、オチンポに加わる刺激によつてカラダが強張つてしまう指揮官。優しくセントルイスお姉さんに女の子へのアプローチを教えてもらい、なでなでしてもらおう。

「しきかんさまの♡♡♡♡♡、だんだんと♡♡、おおきく♡♡♡♡♡、熱く♡♡♡、かた〜く♡♡なつてます♡♡♡♡♡、よしよし♡♡♡、ちよ〜と♡♡♡、はげしく♡♡♡♡♡、してみますね♡♡♡♡♡

♡えいつ♡」

しゅこしゅこしゅこ♡♡♡♡♡しこしこしこ♡♡♡♡♡ぎゅつぎゅつ♡♡♡しゅつしゅつ♡♡♡♡♡

先程とは打って変わって早いストロークを繰り出すイラストリアス ママのおおてて。純白のおおててが赤黒いグロテスクな指揮官おちんぽをしゅつ♡しゅつ♡と捌く。イラストリアス ママは聖母の笑みと小悪魔の笑みを共に浮かべ、ザーメンタンクをにぎにぎ♡♡しながらはやくだせ♡♡と、催促する。

「しきかんくん♡、ピクピク震えてる♡♡♡、かわいい♡♡♡♡、もうつらいよね♡♡、いいよ♡♡だしても♡♡♡、かつこよく射精できたら♡♡、よしよし♡したげるよ♡♡♡」

「しきかんさま♡♡、もうだしていいですよ♡♡♡、パンパンでおつらいですよね♡♡、だいじょぶです♡♡♡、ママと一緒に射精手伝いますから♡♡♡、それ♡♡、びゅつびゅつ♡♡♡♡♡」

2人のママのあまあま♡ことばに脳と腰がとろけて、指揮官は射精した。

びゅびゅびゅるるるううううう♡♡♡♡♡どくどくううううう♡♡♡♡♡びゅつびゅるるる♡♡♡♡♡

「えらいえらい♡♡、かつこいいですよ♡♡♡指揮官様♡♡♡、よしよし♡♡♡♡♡」

「よしよし♡♡、よく頑張ったね♡♡♡、ご褒美にい、ちゅうううううう♡♡♡♡♡♡」
イラストリアス はおっぱいで指揮官の背中をぶるぶる撫でながら、先程まで指揮官のオチンポを捌いていた手ををれるお♡♡♡と、なめとつた後よしよし♡と、頭を撫で始めた。

セントルイスはご褒美にとぶちゅうううう♡♡♡♡♡とととととのキスをプレゼントした。

「ぶはあっ♡♡♡、もうお姉さんのおまんこところ♡のぐしよぐしよ♡、たまご工場もどくんどくん♡♡♡っていつぱいつくつてる♡♡♡」

「わたくしもっ♡♡♡、ふかふかシルクのあかちゃんベッド♡♡♡、しきかんさまとのあかちゃん専用のおねんね部屋♡♡♡、たくさんなたまごちゃんといっしょに♡♡、おまちしていますう♡♡♡」

ととととと♡♡♡と、愛液をだらだらと垂れ流しながら、仰向けM字開脚の構えで今か今かとご主人様のお帰りを待つ奥様マンコ♡♡、はやくママにして♡♡とおねだりする欲張りマンコ♡♡♡2人は優しく手解きをしあまあまセックスをしようとしていたが、それは指揮官によって粉碎される。溶けた鉄を思わせるチンポでイラストリアスを

どつちゅゆううううんんん♡♡♡♡♡
と、貫いた。

「お、お、お、おおおほお、お、お、おおおおおお♡♡♡♡♡」

「えっ♡♡♡!?うそっ♡♡、そんな♡♡♡」くちゅ♡♡くちゅ♡♡

普段の美しくも可愛らしい声とはかけ離れたブタのような声を上げるイラストリアス ママ。一撃で陥落した聖母を見て怯えるセントルイス。

ばちゅっ♡♡ばちゅっ♡♡

「お、お、っほおっ♡♡♡、し、しきかん♡♡ひやまあ♡♡♡」

ばっすうんっ♡♡ばっすうんっ♡♡

「お、♡♡、おくう♡♡♡、えぐれ♡♡、なか♡♡ひつかかつてえ♡♡、だめえ♡」

ぼちゅっ♡♡ぼちゅっ♡♡

「だめえ♡♡♡、しきゆうう♡♡♡、おりてきちや♡♡だめえ♡♡」

ぼっちゅ♡♡♡どちゅ♡♡りりい♡♡♡♡♡

「お、お、ぎよっひよおおお、お、お、おおおおおお♡♡♡♡♡し、しきゅ♡♡♡、オチンポさま♡♡♡、ボコボコきしゅう♡♡♡♡♡」

遂に指揮官の肉棒がイラストリアスの赤ちやん部屋を直接ノックした、あまりにも乱暴なお父さんの登場に、お部屋の中の卵はぶるぶる♡と震えていた。

一匹の白い雌豚が絶叫を挙げて種付けされた。これが数十分前まで愛しの旦那様を
勞る女神のような良妻だとは誰が信じるだろうか。そして、豚が孕む時が来た。

どくん…
♡

「おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡」

どくん…♡どくん…♡
♡

「あっ♡♡あゝあゝあゝ♡♡♡♡」

知能が著しく下がり、簡単な鳴き声しかあげられなくなった哀れなイラストリアス、
がっしりと固めている旦那様に足をひくっ♡ひくっ♡とさせて、助けを乞う。

どくん♡どくん♡どくん♡どくん♡

「あゝ♡あゝ♡あゝ♡あゝ♡あゝ♡あゝ♡あゝ♡」

そして逃げ場を失った女神卵子に一斉に精子が襲いかかった。

ずぶずぶぢゅ
どくん♡どくん♡

「おっ♡ほお♡♡はら♡♡んみゃ♡♡あひっ♡♡♡♡♡♡♡」

子宮をボコボコに殴られ、挙げ句の果てに卵子もボコボコレイプされて果ててしまつた
イラストリアス。たった一つの卵子に何匹もの精子が同時に入り無事、懐妊。白目を
剥いてえへえへ♡となくだけになつてしまった。彼女をそこまで犯した犯人兼パパ

は次の獲物を見つけると直ぐに犯行に移った。

「やっ♡♡♡、まってえ♡♡、こんだなんてえ♡♡♡♡、たすけてえ♡♡♡♡」
 余裕ぶつてたセントルイスママも指揮官のボコボコレイプを見て命乞いを始めた。
 しかし、

どぼつつすうううううううん♡♡♡♡♡♡♡♡♡

そんな弱々しい姿は、オチンポ様の勃起の糧にしくならなかった

「おんぎよおおお おおおおおおおお おお おお おおおおお〜〜♡♡♡♡
 ♡♡」

最初の一撃で子宮まで貫通したセントルイスはカエルのようにヒーヒーし始めた。

ばすん♡ばすん♡

「しきゅ♡♡、とどい♡でえ♡♡♡、ぎぐう♡♡♡♡」

どちゅん♡どちゅん♡

「だめえ♡♡♡、しきゅうのお♡♡♡、おくちい♡♡ゆるんじやう♡♡♡」
 ぶぢゅっ♡♡♡ぶぢゅっ♡♡♡

「きつ♡♡、きすう♡♡♡、しきゅうとお♡♡♡つほお♡♡♡、オチンポお♡♡きす
 してゆう♡♡♡♡♡」

ここに指揮官は腰の動きを変えて、捻ってこじ開けるような動きにした。

ぐりゆりゆりゆ♡♡ぐりゆりゆりゆ♡♡

「なっ♡、なに♡♡♡、これえ♡♡♡、まさ♡♡かあ♡♡♡」

ごりりりい♡♡♡ぶぼぢゅうううう♡♡うううううん♡♡♡♡♡

「んお♡お♡お♡お♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡、しきゅ♡♡♡う♡、があ♡♡♡♡」

オチンポ様は雑魚子宮を問答無用でこじ開けた。口でザーメンをゴクゴク♡とさせ

ず、そのまま直で孕ませるつもりだ。そろそろ限界が来てぶるぶる震える頃合いだ。

ぶるっ♡♡ぶるるっ♡♡♡♡♡

「あ、ああ♡♡、たすけ♡♡てえ♡♡、いらすと♡♡りあすう♡」

セントルイスの呼びかけにイラストリアスはえへ♡おほ♡と間拔けな答えしかで

きなくなっていた。

ぶるるるるっ♡♡♡♡♡ぶるぶるぶる♡♡♡♡♡

「お♡、おねが♡い♡♡♡、ですう♡♡♡♡♡、ま♡、ままと♡♡、おなかの♡を♡♡♡、たすけてえ♡♡♡くだひや♡♡♡い♡♡ばばあ♡♡♡たひゅけ♡♡て♡♡♡♡」

最後まで言い切る前に、パパは目の前の雌豚に射精した

どぼぼびびびゅびゅぶゆるるるる♡♡♡つ!!♡♡♡ほびびびびびぶるるる♡

び♡♡♡♡♡つ!!♡♡♡♡♡ほ♡♡♡♡♡ほ♡♡♡♡♡どびゆるるる♡

♡♡♡♡♡ど♡♡♡♡♡ぶ♡♡♡♡♡ぶ♡♡♡♡♡

官専用のオナホ兼、ミルクサーバー兼、おトイレとして、一晚を過ごした。

10ヶ月後2人の出産予定日

「んっ♡♡、旦那様もヘンタイですね♡♡♡、この子達も困ってます♡♡♡んっ♡♡」
「ふうっ♡♡、こーんな風にパパと会ったら♡♡♡、お腹の子♡♡も、ヘンタイさんになっ
ちやう♡♡、んひっ♡♡」

2人は以前と違い、イラストリアスはウエディングドレスを、セントルイスは銀色のドレスを着てお腹をぼっこりと膨らませていた。

エロ踞の構えでポールに腕を絡ませ、産む体勢を作っていた。

公開出産セックスアクメをするためだ。赤ちゃんがいる部屋を出産しながらボコボコに叩いてもらって産みやすくして、2人で1人ずつ子供をぶつつひいい♡♡♡♡おんぎいい♡♡♡♡と鳴きながらブリブリ♡♡と産む姿を愛しのダーリンに見せる。

「旦那様♡♡♡、イラストリアス♡♡♡、準備できました♡♡♡。」

「パパ♡♡♡、セントルイス♡♡♡、いつでもOKよ♡♡♡。」

以前と比べ少し黒味が増した秘部を見せる2人、そのグロテスクな入口のたった30

数センチ先に愛の結晶が眠っている。

指揮官としてはどちらから犯しても別に良かった、だから2人に耳打ちして、その結果を見て犯すことにした。

「んっ♡♡♡、パパも♡♡♡、わるいひとつ♡♡、でも♡♡♡、いうこと聞いちゃうわ♡♡♡♡♡。」

「このイラストリアス♡♡、旦那様のためならば♡♡♡、如何なる恥辱も♡♡♡、痛みも♡♡♡、耐えますわ♡♡♡♡♡。」

そして2人に耳打ちした内容とは

クネっ♡♡♡♡♡クネっ♡♡♡♡♡

「だんなさまあゝゝゝ♡♡♡♡♡、どうか♡♡、どうかあ♡♡♡♡、この卑しき白豚に♡♡、つよつよざくめんをお♡♡♡♡♡、ぶりゆぶりゆってブツこいてください♡♡♡♡、ママより先に♡♡、赤ちゃんに♡♡、ミルクのませてあげてください♡♡♡♡、ざくめんのませてあげて♡♡♡、パパだよゝって♡♡、教えてあげてくださいませ♡♡♡。」

「ごしゅじんさまあゝゝゝ♡♡♡♡、おねがいですうゝゝ♡♡♡♡、この淫乱青豚をお♡♡、ばちゆうっ♡♡♡♡、ほちゆうっ♡♡♡♡、つて中にあるあかちゃんもろともお♡♡♡、犯してください♡♡、子宮のなかあ♡♡♡、あかちゃんのおねんね部屋あ♡♡♡♡♡」

♡♡、はむっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡、むぢゆる♡♡♡♡♡♡、れるお♡♡♡♡♡♡、んちゅう♡♡♡♡♡♡」
 「ねっ♡♡♡♡、もっど激しく♡、パンパン♡♡♡♡♡♡しよ♡、ゴリゴリ♡♡子宮ほじつてえ♡♡、産気つげちやおっ♡」

すると、指揮官は

ばんっ♡♡♡♡♡ばんっ♡♡♡♡♡ばんっ♡♡♡♡♡

「んっ♡♡♡♡、きたあ♡♡♡♡♡」

少し激しく、それでも優しくお腹のあかちゃん部屋にノックし始めた。

もぞっ♡♡♡♡♡もぞもぞ♡♡♡♡♡

「あかちゃんもお♡♡♡♡♡、うれしくつてえ♡♡♡♡♡もぞもぞしてるう♡♡♡♡♡」

赤ん坊が動き回るからお腹からもどう動いているのかはつきりと見ることができた。

ばちゅっ♡♡♡♡♡ばちゅっ♡♡♡♡♡ばちゅっ♡♡♡♡♡

びきい♡びききい♡♡♡

「パパのお♡♡♡、膨らんでえ♡♡♡、あかちゃんに♡♡♡、みるく♡、のませようとっ♡♡♡してるう♡♡♡♡♡」

ぐりゅ♡♡ぐりゅ♡♡ぐりゅ♡♡ぐりゅ♡♡ぐりゅ♡

「あっ♡♡、もう♡♡♡、だそうと♡♡♡してゆっ♡♡♡、おへやのいりぐちい♡、ねらいすましてるう♡♡♡、あかちや♡♡♡、とお♡、おかされりゅう♡♡♡きてえ♡」

「おひっ♡♡♡、はぁ♡はぁ♡、えへへ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

どろろろおおお♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

滝のようにザーメンがこぼれ出る。

セントルイスは肩で息をしながら、ひゅーっ♡ひゅーっ♡と元の体勢に戻った。余韻で子宮の内と外がまだまだびくびく♡と震えていた。

「こんどは♡♡♡、わたし♡♡♡、ですね♡♡♡♡♡♡、旦那様♡♡♡」

へこっ♡♡♡へこっ♡♡♡と腰を振って、旦那様チンポを焚き付け、ぬりぬり♡♡♡とおまんこに擦り付けるイラストリアス ママ

「がんばれ♡♡、がんばれ♡♡、おとーさん♡♡♡、お腹の赤ちゃんまつてるぞ♡♡♡」
チアリーダーのようにリズム良く調子を取るイラストリアス ママ。トレーナーの男根はググツと元のサイズに戻っていき、びきつびきびきつとザーメンを再生産していく。

「準備い♡♡、できましたね♡♡♡♡♡♡、それではあ♡♡♡、おねがいます♡♡♡♡♡♡」

むっちりした腰を突き出して、甘くくっさい♡匂いで誘惑する。オチンポを迎え入れるためにむちゅっ♡とくっつける。それに応えた。パパは

むりゆりゆりゆううううううううううう♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

と挿入した。

「お、お、お、お、お おお おお おお くくく ♥♥♥♥♥」

だらしない声で喜ぶイラストリアス。

愛しの旦那様にオチンポキスされてただただうれしくてしかたがない。子宮はすでに降りきつてねつとりラブラブ出産直前交尾を楽しもうとしている。

ぬちゆううう ♥♥♥♥♥ぬちゆうう ♥♥♥♥♥

「しきゆうと ♥♥♥♥♥、おちんぽさまあ ♥♥♥♥♥、キスしてるう ♥♥♥♥♥♥♥」

このチンポで孕まされたんだぞ♥、このチンポがご主人様なんだぞ♥、と形をじつくりママに教え込むかのような動きで腰を動かす。

ぬりゆりゆうう ♥♥♥♥♥ぬりゆりゆうう ♥♥♥♥♥

「ほっ ♥♥♥♥♥、ほっ ♥♥♥♥♥、あかちや♥♥♥♥♥、なでてえ♥♥♥♥♥」

オットセイのように鳴き、涙と涎を垂らしながらイラストリアスが赤ちゃんをなでると嘆願する。

なでなで ♥♥♥♥♥なでなで ♥♥♥♥♥

すると、

もぞもぞ ♥♥♥♥♥もぞもぞ ♥♥♥♥♥

「んひっ ♥♥♥♥♥、あかちや♥♥♥♥♥、うごかないでえ♥♥♥♥♥、なでないでえ♥♥♥♥♥、きもちよ♥♥♥♥♥すぎい♥♥♥♥♥」

自分で頼んでおいて、この態度である。お腹の中の子は、素直に喜ぶのに、母親ときたらできない。だから指揮官は罰を与えることにした。

ぬっぽおお ♡♡♡

「おひえ♡♡♡♡?なんでえ♡♡♡♡」

チンポを抜いて、手で捌き始めた指揮官。

イラストリアスの正面でシコシコ♡し、もうお前のオマンコ使つてやんねえからなと暗に示す。

「そんなあ♡♡、やだあ♡♡♡、イケないのやあ♡♡♡♡」

子供のように泣きじやくるイラストリアス ママ、手を拘束されているから自慰もできない、ただあかちやんがもぞもぞ♡するのと、膣に残る余韻に浸るしかない。

「ごめん、な、ざい、い♡♡、じぶんがつでえ♡♡♡、ごめん、な、ざい、い♡♡♡、ずな、お、じゃな、ぐでえ♡、ごめん、な、ざい、い♡♡♡、どお、が、あ、み、す、で、な、い、で、え♡♡♡」

ここまでうるさいと仕方がないなあとなってくる指揮官。それでも素直に許すのもアレだからと、壊していいか、と聞く。

「お、ねがい、じまずう♡♡♡、ごわ、じでもい、い、が、ら、あ♡♡、だ、め、な、な、つ、で、も、い、い、が、ら、あ♡♡♡、お、ね、が、い、な、の、お♡♡、ご、わ、じ、で、え、え♡♡♡♡」

した。

「おびっ♡♡♡♡、べひっ♡♡♡♡、んぶふえくくっ♡♡♡♡♡♡♡♡」

頭の中はパパすき♡だいすき♡あいしてる♡イク♡あかちゃんすき♡きもちいい♡うむ♡あかちゃんうむ♡とラブコールと快楽が大きな渦を作り上げて、理性を抉り取っていた。

そして、蕩けていた2人に出産の時が来た。

どくん…♡どくん…♡

「お♡お♡♡♡!?じんづう♡♡♡きりや♡♡♡きもち♡♡い♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」
♡っひい♡♡♡♡

どくん…♡ぶっしゅううううううう♡♡♡♡♡♡♡♡

「ようすい♡♡♡、でたあ♡♡♡♡♡♡♡♡」

愛液とも精液とも異なるくっさあい♡♡羊水がぶっしゅうううう♡♡と間欠泉のように吹き出した。

どくん…♡どくん…♡ごちゅうう♡♡♡♡

「いぎい♡♡♡♡、あかちや♡♡♡、あたまあ♡♡♡♡♡♡、しきゅ♡♡♡♡、ごおに♡♡♡♡、あ♡ででる♡う♡♡♡♡♡♡♡♡、ごじあ♡げよ♡う♡どじでる♡う♡♡♡♡♡♡♡♡」

指揮官のオチンポより太い愛の結晶が子宮を内側からこじ開けようとしている。場合によってはショック死してしまったり、出血多量で死んでしまうこともあるが、頑丈なKAN—SENには縁のない話である。それに、ご主人様によつて陣痛や出産時の痛みも全て快樂へと交換する様に調教されている。

めりい：♡♡めりめりい…♡♡めりめりい♡♡♡

「あゝがぢや♡♡♡、はやぐう♡♡♡♡、はやぐでてえ♡♡♡♡、おゝねゝがいゝい♡♡♡♡、んゝんゝぎゝいゝ♡♡♡」

ごりい…♡♡ごりゆりい…♡♡ごりりい…♡♡♡するう…♡♡

「やゝだあゝあ♡♡♡しぎゆうにゝい♡♡もゝどらないでえ♡♡♡♡あゝぞばないでえ♡♡♡んぎゝい♡♡んぎつぐう♡♡♡」

赤ん坊の出産とは何度も赤ん坊が胎内で回転を出産に適した体型になるまで繰り返して、できるものだ。肩まで外に出ればズルツと産めるが、それまでが苦難の時だ。最も、2人にとつて苦難なのは天国へ連れてかれるかのような快樂だが。

ごりゆつ…♡♡、ごりゆりゆりゆつ…♡♡♡

めりゝよりゝよ…♡ゝずぼおおつ…♡♡♡♡♡

「ぶつつひいつ♡♡♡♡、あだまつ♡♡♡、しぎゆ♡♡♡ごおつ♡♡♡、れだあ♡♡♡」

越えられますわ♡♡♡♡♡」

「パパ♡、ありがとう♡♡♡♡、ちよつと乱暴でやんちゃなところあるけど、優しくて大好き♡♡♡、この娘もパパに似てきつと優しい子になるわ♡♡♡♡」

拭き終えると、2人は赤ん坊に授乳を始めた。

「んっしょと♡、躓かないように♡、はあい♡、ミルクですよ♡♡♡、くくく♡♡♡」
 「よいしょと♡、横抱きして♡、よちよち♡♡♡、ママのミルクでちゅよ♡♡♡、ばぶ♡♡♡」

愛し子の頭を優しく撫でながら、あまあま♡ミルクを飲ませていく。時折り、体勢がキツくならないように、微移動しながらあやしていく。

「ふう〜♡、いいこいいこ♡」

「よし♡、いいこでちゅね♡」

2人のママは近くにあるブランケットの敷かれた赤ちゃんベッドにそれぞれの子を寝かせると、指揮官に向き直って密着しながら正座し、両手をかざした。

「よくミルク我慢できましたね♡、こんどは旦那様の番ですよ♡」

「パパもママに甘えていいんだよ♡、いっぱいよしよししてあげるから♡」

2人の聖母が安息へと誘う。

指揮官は2人の膝へ頭を埋め、甘い女神の声と温もりに包まれながら眠りについた。